

## 「お知らせ！」

「山の学校」では、3学期（平成15年度12月から3月まで）の会員を募集いたします。入会・継続のお手続きはお早めどうぞ。

2学期との相違点は、次のようなものです。

### 1 「ひねもす教室」（小学生の部）

- (1) 月曜日、4時～6時の「ひねもすクラブ」が、「ひねもす教室」になります。
- (2) 参加資格は「山の学校」会員でなくても可。
- (3) 参加希望者は、1回500円。5枚綴りまたは10枚綴りの「カプラ・ひねもす共通券」（後述）もご利用頂けます。また、幼稚園児用のカプラ券に200円プラスしてご利用頂くことも可能です。
- (4) 指導は、京都工芸繊維大学工芸学部造形工学科の学生スタッフが担当します。

### 2 「カプラ・ひねもす共通券」

- (1) 「ひねもす教室」開設に伴い、従来のカプラ券（5枚綴りの回数券2000円）の代わりに「カプラ・ひねもす共通券」（5枚綴りの回数券2000円と10枚綴りの回数券3000円）を発行いたします。
- (2) これは、「ひねもす教室」と「カプラ教室」のどちらにもご利用頂ける共通の券です。ご希望の方は、古封筒に代金を同封の上、お申し込み下さい。

### 3 「ラテン語初級コース」の開設

- (1) 水曜日、8時10分～9時30分に、ラテン語の初級コースを開設します。この3学期に文法事項の半分の勉強を終え、続く平成16年1学期に後半の勉強を終える予定です。
- (2) サンプル授業をいたします。  
時：12月3日（水）、PM8:10～9:30（筆記具のみご持参ください）
- (3) なお、現在ある金曜日のラテン語のクラスは、来年4月より「ラテン語講読コース」として原文の読解をスタートする予定です。ぜひ、この機会をお見逃しなく。

### 4 秋の“スペシャルイベント”として…

フィルムシアター「夢ばかり見ていた」（松本紀生氏 講演）  
時：11月22日（土）、AM10:00～11:30

### 5 「英語の読み書き」（高校・一般の部）

サンプル授業をいたします（保護者見学可）。  
時：12月1日（月）、PM8:10～9:30（筆記具のみご持参ください）

### 6 「ひねもす龍」お披露

「ひねもすクラブ」で現在製作中の「巨大龍」を、ふれあいバザーの日にお披露目します。ひねもすを使って、一体どんなものが完成したか、ぜひご覧に来て下さい。  
時：11月29日（土）

# 『英語の読み書き』 (担当 山下太郎)

## 「英語が苦手な君に…」

(※この文の読者は、高校生・大学受験生を想定しています)

英語がちょっと苦手な様子ですね。模擬試験の結果が悪くて落ち込んでいるとのこと。学校の勉強は試験範囲が決まっているから試験前に集中的に勉強すればいいのですが、模擬試験となると話は別ですね。大学入試のことを考えると気も滅入る・・・その気持ち、わかります。じゃあ、ちょっと息抜きに、私の「基礎力診断テスト」でもやってみてください。1分で終わりますから。

「わかってそうで、答えが出せなかった」問題はありませんでしたか。つまり、それだけ体がなまっていたということです。すこし厳しい言い方かもしれませんが、内容はごく平凡な高校受験レベルの問題です。本来は90%以上できなければ困る内容ですね。じゃあ、何に困るかと言えば、普段の学校の授業を理解する上で困るということです。先生も困るし、あなたも授業がわからなくなって困るのです。

結論は簡単です。まあ騙されたと思って、中学校で習った勉強のおさらいをしてください。たとえば、大学入試用の単語集を覚えようとがんばっても、中学時代に習ったことへの理解がデタラメだと、3日もたたないうちに勉強するのが嫌になります。勉強が続かないのは自分の根気がないためではありません。やり方に問題があるのです。

自分の実力に合った勉強を続ける限り、勉強は本来おもしろいはずですよ。だれにでもその人にとってふさわしいレベルというものがあるのです。そのレベルの高い、低いはこの際問題ではないのです。自分のレベルをしっかりと見定めることがなにより肝心なのです。

具体的には、本屋に行って、中学1年生用の問題集を買って解くことです。大学受験生だから、大学受験用の問題集を買う、というのは駄目です。それは誰だってやっています。恐らく初めのうちは、今回の「基礎学力診断テスト」と同じような点数を取るでしょう。私のデータでは、「英語が苦手!」という高校生の場合、たいてい2問に1問は間違え勘定です。

しかし、普段解いている大学受験の問題と違って、間違ったときの気分が全然違うことに気づいてください。つまり、「あっしまった!」とか「そういえば、そうだったなあ!」という感じですね。

大学入試用の問題だと、到底こういう気持ちにはなれないでしょう。たいていが4つから1つを選ぶ形式ですから、できてもマグレということもあるし、できなくても「どうでもいいや!」という投げやりな気持ちになるものです。また、大学受験の勉強では、覚えることがあまりにも多すぎて、なんだかコップで海の水をすくうような空しい気分になってきます。それに対して中学英語の問題は、単語のレベルが限定されています。覚えるべき事柄は、単語というよりむしろ英語の基本的なルールです。例えば、「受動態=be 動詞プラス過去分詞」とか、です。

このルールはどう数えてみても200もありません。代表的な例文は、丸ごと暗記すればいいのです。1日20も覚えていけば、10日で終わる計算です。大学受験で問われる内容のすべてを網羅的に覚えようとするのは、たしかにコップで海の水をすくうようなものですが、中学英語の復習は、せいぜい風呂の水をコップでくみ出すようなものです。簡単なことでも、まじめにやっていると、「これが本当の勉強だったのだな!」という気持ちになります。

とは言っても、入試問題の英文はそう簡単に読めるようにはなりません(ネイティブにも難解なはず)。根気よく辞書を引いて予習することが基本的に必要でしょう。まじめにとりくめば、うまく訳せずに1時間2時間があつと言う間に過ぎていくものです。しかし、時間がかかると言うことは、単語の知識が少ないためというより、むしろ文法の力、中学英語の理解が足りない結果である場合が多いものです。

受験生ならだれでも知っている単語の一つに **stand** という語があります。ふつう「立つ」という意味で使いますね。**Stand up.** と言えば、「立ちなさい」という意味になります。ところが、この単語には同時に「我慢する」という意味もあるのです。たとえば **I can not stand it.** といえば、「わたしはそれが我慢できない」と訳さなければなりません。もし「私はその中で立ち上がれない」とか訳したら、0点です。では、このような細かな点まで含めて、しっかり単語や熟語を「暗記」していかないといけないのでしょうか。

私はそうは思いません。単語の知識に関しては、強制された勉強は効果が薄いと思います。また、中学英語の理解が単語の暗記の前に不可欠だと再三申してきたつもりです。これは具体的にどのようなことを意味するのでしょうか。例えば、中学1年の英語に戻りますと、前置詞の **in** の使い方を教えます。「学校で」といえば、**in school** となるわけです。今の例文 **I can not stand it.** には、**in** が不在の点に注目ください。今の間違いの日本語（＝私はその中で立ち上がれない）自体を素直に英語に直せば、どうしても **in** が必要になるでしょう。ということは、中学1年レベルの常識的な前置詞の使い方に慣れていれば、問題文の **in** の有無にもっと敏感になれる、と考えられるのです。

あなたは単語の意味のひとつひとつを無理に覚えていなくてもいいのです。ただ、いつもと様子が違うぞ、という感覚がピン！と鋭敏に働かないとだめなのです。何か変だぞ！という感覚が、すっと辞書に手を伸ばす原動力になるのです。つまり、ありふれた **stand** という単語に「我慢する」という訳語を「自分の力で」見つけ出すためにも、中1で習う前置詞の復習は重要です。このような例はいくらでもあります。**He runs a small restaurant.** といえば、「彼は小さなレストランを経営する」と訳すのであって、けっして、「彼は小さなレストランの中で走っている」とはなりません。あなたは、何も中学校の英語の教科書が読めないわけではないのです。むしろ読めるから、その大切なポイントを無視する傾向があるのです。

最後に私の取っておきの勉強法を申し上げます。それは、「簡単な日本語を英語に直す練習」です。

はじめは騙されたと思って、中1レベルに限定して、その英作文がすらすらできるまで繰り返してください。大学生でもすらすらできる学生は希です。まして中3までの範囲で出題しますと、つまづく例文が続出です。わたしが重視するのは英作文としてみた中学英語ということなのです。これが縦横無尽に日本語から英語に直せるレベルに到達できてこそ、真の意味で英文法を理解できた人と申し上げてよいでしょう。

繰り返しますが、覚える例文は200以下です。これは漢字の勉強と同じことです。漢字を「読む」練習も大切ですが、むしろ「書取り」の練習をした方が、短時間で効果があるということです。私も最近ワープロを使うので実感することですが、読み方は知っていても、いざ書くとすると、正しく書けない漢字は案外多いものです。辞書を見ないで書ける漢字は、必ず読めるはずですね。

焦る気持ちはわかりますが、そうせつかにならないことです。大学に入っても、英語が嫌いで、年々忘れる一方の人が大勢います。大学に行かなくても社会に出て、英語を達者に使っている人が大勢おられます。英語を使い、自分で自分の道を切り開く人になるためにも、徹底して英語の基本を復習し、せめて身の回りのことをすらすら英語で言えるようにしてください。ご健闘をお祈りします。

(文責・山下太郎)

\*\*\* SENSE OF WONDER !

## 「しぜん」だより

山下育子(しぜんクラス担当)

2学期のしぜんクラスは、8月26日「山の学校」夏のイベント“ワクワク探険教室”でスタートしました。

“きのこ”をテーマに、また、鳥の声に耳を傾けながら瓜生山中を歩き、“カワラタケ、ベニタケ、シロハツ、ホウキタケ、ドクヤマドリ、それに珍しいツチグリ”など、沢山のきのこを見つけることができました。それを、予めだまかに分類しておいた5, 6枚の「きのこカード」に照らし合わせながら該当のカードの下にきのこを1つずつ置いていき、狸谷不動院の軒をお借りして、『きのこ実物分類表』が出来上がりました。雨上がりの暑い夏の一日が、今ではとても懐かしく思い出されます。

### “ひまわりの種”——ある9月のクラス

この夏は、大きな「ひまわり」の花が何十本と、空高く花壇一面に咲きました。この日のクラスでは、まずはじめに、5月にひまわりの種を皆で植えたことを思い出してみました。

- |    |   |
|----|---|
| 1. | 春の花の残り(チューリップ, ムスカリ, クロッカス)を1本ずつ土から抜く                             |
| 2. | 根のまわりに、子球ができているのを観察する   |
| 3. | 雑草を抜き、土を耕して、新しい土と肥料を加え、ふかふかの土にする                                  |
| 4. | 4種類のひまわり(ジャンボリー, サンスポット, かがやき, サンビーム)を、指で穴を開けてその中に1粒ずつ種を入れ、土をかぶせる |
| 5. | たっぷりの水をかける  |

「ぼくは、ムスカリ好きだったな」「ひまわりはあっという間に、ぐんぐん大きくなっていったね」

「ひまわり」とは、日を追って回る花という意味があるそうで、花が咲いたらもう回らなくなります。また、ひまわりは北アメリカの野原で生まれてヨーロッパに広まり、17世紀頃中国を通して日本に来たそうです。

——クラスの机の上には、咲き残った小さなひまわりの花がガラス瓶に、そして傍らに高さ2メートルはあり、大きな顔を下に向けたひまわりが首を垂れてクラスの仲間入りをしています。

「ひまわりの種って食べられるって聞いたよ」「テレビで、大リーガーがベンチでプップって口から殻を出してるの見たことない？」

「リスはほっぺたにいっぱいためている」「殻は食べられないね」「ひまわりの種はたんぱく質、マグネシウム、カルシウム、鉄分などの栄養がいっぱいあるそうよ」

——皆の顔は、ニンマリ「ひまわりの種のおやつ？」ムード……。クラスの隅には、コンロとフライパンが見えているので勘のいいみんなは初めからわかっていたようでした。

「じゃ、殻をむいてみよう」「殻をむかないで、そのままフライパンに入れてみようかな」——結構、殻を一つずつむく作業は大変でしたが、フライパンで炒った“ひまわり”の味は、皆、口を揃えて「美味しい!」「アーモンドみたいな味!」

\* 一人何粒かの貴重なおやつに、りんごジュースが加わり楽しいひと時となりました。

### “誰の声かな?” 虫の音——ある9月のクラス

皆がよく知っている、夏に木の上で鳴く虫は? 「セミ!」

では、今のこの時期によく鳴いている虫は何だろう?

「コオロギ」「スズムシ」「マツムシ」・・・「バッタ!」

「バッタは鳴くかな?」

バッタの仲間には、足を体にこすり合わせて音を出すのもいるけど、「鳴く虫」とは違うね。「バッタの仲間は何がいる?」

「トノサマバッタ」「ヒシバッタ」「オンブバッタ」「イナゴ」

「秋になると、あちこちからいろんな虫の音が聞こえてくるね」

「オスがメスを誘うんだね」「メスは鳴かないね」

鳴き声を出す虫は、キリギリス、コオロギの仲間です。このお山でもよく耳を澄ますとお昼から、そして夜は勿論、虫たちの大合唱が聞こえます。

**コオロギの仲間** …… ①体の特長は、背が低く横幅が広い  
②住んでいる場所は、地面や草の上

エンマコオロギ 『コロコロコロコロ』 カネタタキ 『チンチンチンチン』

アオマツムシ 『リーッ、リーッ』 ツツレサセコオロギ 『リィリィリィリィ』

カンタン 『ルルルルル』

**キリギリスの仲間** …… ①体の特長は、背が高く横幅が狭い  
②住んでいる場所は、草の上

キリギリス 『ギーッチョン、ギーッチョン』 ウマオイ 『スイーッチョン、スイーッチョン』

- \* 鳴く虫の種類と鳴き声を、スクリーンを使って見ました。また、このお山で鳴いている、夜の虫の合唱の録音を、静かに耳を澄まして聞いてみました。最後に、皆の知っている「虫の声」の歌と一緒に歌いました。  
——あれマツムシが鳴いている ちんちろちんちろちんちろりん あれズムシも鳴きだした リンリンリンリン リーンリン……

### “ミ・ミ・ズ” 雨の一日——ある10月のクラス

この日は雨でした。外国では「アースワーム」、つまり「地球の虫」と言われるミミズについて、みんなで考えてみました。

ミミズは、世界で約3,600種類、長いミミズは2メートル、短いミミズで5ミリ。私たちが身近によく見るのは雨あがりに道でみかける、長さ12～15センチくらいの“フトミミズ”、土や枯れた根を食べます。また、“シマミミズ”は、5～8センチ、赤っぽく体にしまがあり、生ゴミを食べてくれます。

ミミズたちのお腹を通して出てきたふんは、すぐれた「土」であること、また、そのミミズの自然の力を利用して産業廃棄物や一般家庭の生ゴミまで肥料化できる、ミミズのすごい活躍に思いを馳せました。

後半は、ビデオシアターで、植物の種についての“孢子のファンタジア”を鑑賞しました。小学生たちは食い入るようにスクリーンを見つめますが、どこからか私語が聞こえてくると、しっかりした上級生から「静かに！」と注意をされることもあります。しぜんクラスは子どもたち自身の協力体制で、クラスが成り立っていると感じます。また、何かに対しての質問が出ると、クラスのメンバーの誰からか、それに対する答えが返ってきます。まるで、インターネットのようなクラスだと思っただけです。

「生物」「植物」などの自然分野が大好きな子どもたちだけあって、驚くほどの好奇心と知識に満ちていて、感心することたびたびです。

\*\*\*

そして、映画が終わるやいなや、ある小学生が観賞後の印象を心に感じたままプリントの端っこを使って表現してくれました。この場をかりて、ご紹介いたします。

#### 詩

星の空で つくしのほうしが 踊ってた  
ブルーのからだで たいそうだ  
水の上を すいすいと  
仲間といっしょに おいわいだ  
ぼくらの誕生 おいわいだ

# 『ことば』 (共担 福西亮馬)

## 「玉手箱と若返りの水」

『赤ん坊になったおばあさん』(紙芝居は『あかんぼおばあさん』)という昔話があります。おばあさんが若くなる水を飲みすぎて、赤ん坊になってしまう話です。

紙芝居を読んだ後に、一杯の水を用意しました。すると、「ちょっとだけ」とか、「ぼくには、注がんといてや。」という声もあり、それがかえって本物らしく見せてくれていました。ちょうど、「おばけなんて…」と思っても、真暗な廊下に立つとやっぱりこわいと感じる、それと同じような心があるのだなと思いました。

さて今回は、「戻れたら、何才になりたい？」というテーマです。そして一人はこのような願いを書いてくれました。

もどれるなら、3、4才にもどりたい。

3、4才になったら、ゆき先生と遊べるから。

(3年生)

ゆき先生というのは、彼の幼稚園時代の先生です。「若返りの水」によって、彼の時間は戻ります。そして昔のゆき先生と出会えます。…ふうんそうか、という気がします、でも、立ち止まって考えてみると、飲んでいないはずの先生まで、時間が戻るのとは何か不思議なような気がします。

彼の「若返りの水」は、まわりの世界全体も若返らせる力がある、タイムマシンのような物だったのだらうと思います。たった二行で彼がこのように飛び越えたことが、私にはとても貴重だと思われました。

今の幼稚園にはいない先生であっても、心の中では、いつまでも幼稚園の先生をしている。心のどこかに時間の止まっている場所があって、そこにいる人のことを思い出したのがあの詩なのです。

次は、若くなるのとは反対に、年を取ってしまう紙芝居です、というと、もうおわかりでしょうか？ そう、玉手箱で有名な『浦島太郎』の話です。

さて、竜宮城には不思議な部屋があって、その四方の窓からは、春・夏・秋・冬が一度に見渡せるというぐらひがあります。

春、夏、秋の光景は、ただただ驚き魅入るばかりです。太郎が最後の窓をのぞくと、真っ白な雪に埋もれた村が見えます。そこから、機織の音が聞こえてくる、そんな気がしたのか、太郎ははっとして、老いた母のことを思い出す、という流れです。

紙芝居を使うと、このあたりの光景が、あたかも時間が止まっているかのように、鮮明に心に残ります。このことから、それぞれの心に思い浮かぶ四つの窓を描いてもらうことにしました。その窓の景色とは、実は心の中の季節です。夏は野球をし、冬は雪合戦をしている。あるいは虫が好きなら、虫を描いている。これもまた「若返り」のときと同じ、願いの景色なのです。

竜宮城の時間は一年が三百年とも言われるように、ほとんど止まっているそうです。それで時間の外に立って、一度に四季を眺めることができるのでしょう。

「ゆき先生に会える」という言葉は、一言でありながら、時間を飛び越える翼がついていると、私は思います。それほど彼の言葉の中では特別な位置を持つ、古典であると感じるのです。

彼自身がいつか、この自分の詩という、時間の止まった場所から、将来を眺める時が来るかもしれません。そう思って、私はその一言を称揚することで、未来の彼とも語り合っているような気がします。



